

ちくしのクリップ

問 秘書広報課

2/22

苦しい時こそ真価を發揮

バディフットボールクラブが優勝報告

市内で活動するバディフットボールクラブが、九州ジュニアU-11福岡県中央大会(小学5年生以下のサッカー大会)で優勝し、九州大会への出場を決め、市長へ報告を行いました。福岡県中央大会はプロサッカークラブが指導するチームも出場する中での優勝。選手たちは報告の中で「苦しい時こそあきらめずに走ることがチームの強みです」と話をしていました。



「楽しんで、勝って全国大会を目指してください」と平井市長

2/12

前後左右に振って振られて

筑紫野市長杯バドミントン大会

農業者トレーニングセンターで筑紫野市長杯バドミントン大会が開催されました。大会は団体戦形式で行われ、総勢24チーム133人が参加しました。選手の年齢は10代～70代と幅広く、年齢や性別に関係なく対戦を行いました。選手たちは相手コートの前後左右に強弱打ち分けて、対戦相手を翻弄(ほんろう)していました。



高くとびスマッシュを打ち込みます

2/26

迅速な消火のために
連携を確認

筑紫神社消防演習

筑紫神社から出火した想定で、境内下から高台にある本殿まで水を送り放水する訓練が行われました。この消防演習は3年ぶりに行われ、市消防団筑紫南分団・筑紫分団をはじめ、筑紫野消防署、各自治会長が参加しました。筑紫神社禰宜(ねぎ)の松大路 秀一さんは「今後も防火意識を持って取り組んでいきたいです」と話していました。



境内で放水を行う消防団員(西小田班)と消防署員

2/19

市制50周年を記念
桜を植樹

山家コミ協 体力チェックと記念植樹

山家コミュニティ運営協議会によるレク式体力チェックがコミュニティセンターで行われ、約128人が参加し楽しく体力チェックを行いました。年齢より若い結果が出ると、参加者は歓声を上げていました。

山家9区の船頭木の森では、市制50周年を記念して、桜の苗木6本を植樹しました。行事の後には、山家の白おこわと豚汁をみんなで味わいました。



船頭木の森で記念植樹を行いました

2/25

純粋な思いと美しいメロディーに触れて

筑紫野市人権・同和問題講演会

文化会館で人権・同和問題講演会を行いました。第一部では、吉木小1年生の橋本 陽向さん、二日市北小4年生の齋藤 知世さん、筑紫野南中1年生の小島 愛華さんが、日々の生活の中で体験したことや新しい価値観への思いについての作文の朗読を行いました。この作文は筑紫野市人権作文集第48集「くさび」にも掲載しています。第二部では、「コロナ禍を越

えて 素敵な人生・地域づくりを」というテーマでマザー・アース人権啓発研究所主宰の山口 裕之さんが講演を行い、さまざまな人権問題にまつわる曲のオカリナ演奏を交えながらの講演となりました。

子どもたちの純粋な思いや、オカリナの美しいメロディーに触れながら、人権や他者への思いやりについて改めて考え直す機会となりました。



3人の作文は参加者の心に響く内容でした



美しく力強いオカリナのメロディーが会場を包みました

3/5

森を守り育て、未来に残す

ちくしの森林ボランティア

ちくしの森林ボランティアを3年ぶりに開催し、平等寺の野鳥の森で600本のクヌギの苗を植えました。参加者は「花壇の花植えとは違うね」「これは大変」と、はびこった竹の根や石に大苦戦。皆で協力しながら作業を行いました。初めて参加した白石 幸さん（九州産業高校1年）は、「大変だったけど達成感がありました。できればまた参加したいです」と話してくれました。



しっかりと根付くよう丁寧に植えつけました

3/1

ハンセン病問題への 施策の充実を

ハンセン病差別をなくす会ふくおか

一般社団法人「いのちのライツ ハンセン病差別をなくす会ふくおか」の代表者が、ハンセン病に関する差別や偏見の解消に向けた施策の充実を求める要望書を平井市長へ提出しました。懇談の中で、現在も残る人権上の問題やハンセン病患者、その家族が受けた偏見差別の実態についての話をし、教育や啓発の大切さを平井市長に伝えました。



要望書を受け取る平井市長(右から3番目)

日 日時・期間
場 場所
対 対象
内 内容
定 定員
料 料金
持 持参物
締 締切
申 申し込み先
問 問い合わせ先
☎ 電話番号
FAX ファックス番号
✉ 電子メール
HP ホームページ
ID 市ホームページの記事ID